



各 位

平成 23 年 4 月 22 日

会 社 名 株式会社イーエムシステムズ
 代 表 者 名 代表取締役社長 國光 浩三
 (コード番号 4820 東証 第二部)
 問 合 せ 先 代表取締役専務 青山 明
 (TEL 06-6397-1888)

通期業績予想（連結・個別）の修正に関するお知らせ

平成23年3月11日に発生いたしました東日本大震災につきまして、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。
 最近の業績動向を踏まえ、平成22年11月5日に公表いたしました平成23年3月期の通期(平成22年4月1日～平成23年3月31日)の業績予想数値を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期(平成22年4月1日～平成23年3月31日)業績予想数値の修正

連結業績予想数値の修正

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	8,721	28	259	1,074	135.15
今 回 修 正 予 想 (B)	8,211	91	323	1,495	189.05
増 減 額 (B - A)	510	63	64	421	53.90
増 減 率 (%)	5.8 %	225.0%	24.7%	39.2 %	39.9 %
(ご参考) 前 期 (平 成 22 年 3 月 期) 実 績	9,818	720	493	516	64.96

個別業績予想数値の修正

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当り 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	7,797	35	313	1,423	179.07
今 回 修 正 予 想 (B)	7,285	40	336	1,693	214.01
増 減 額 (B - A)	512	5	23	270	34.94
増 減 率 (%)	6.6 %	14.3%	7.3 %	19.0 %	19.5 %
(ご参考) 前 期 (平 成 22 年 3 月 期) 実 績	6,345	891	656	527	66.31

2. 通期の業績予想数値の修正理由

当社の主要販売先であります調剤薬局を取り巻く環境は、足もとの業績は堅調に推移しているものの、景気の先行きや今後の診療報酬制度の改定により予断を許さない経営環境が続くという見通しから、新規出店やシステム入れ替えなどの積極的な設備投資に向けた動きは引き続き冷え込んだ状況にあります。

当社といたしましては、平成23年3月期はストックビジネスへのビジネスモデル転換後3年目に当たり、黒字転換を目指す非常に重要な事業年度でありました。そのため、市場シェアのさらなるアップを目指して、自社の旧システムをご利用のユーザー様に対しましては「Recepty NEXT」への切り替えキャンペーン、他社システムユーザー様及び調剤薬局チェーン様に対しましては新規ユーザーの獲得を狙い積極的にアプローチを行うなど、新しいビジネスモデルのより一層の伸張に向け精力的な拡販に努めました。

その結果、第4四半期には調剤薬局チェーン様からの受注が確定し、その一部の導入が開始されて売上高増加に寄与いたしました。また、当社データセンターにもユーザー薬局様のバックアップデータが定期的に保存されるため、東日本大震災の被災地域におけるユーザー薬局様のデータ復旧に大きく寄与している事などもあり、当社のストックビジネスはこれまで以上に大きな評価をいただいております。

販売費及び一般管理費につきましては、ワークライフバランスの向上と生産性の改善を全社的に推し進めるなど、経費計画の見直しによる支出削減を含め経費の圧縮に努めました結果、予想数値を下回る水準に抑えられる見込みであります。

また、新大阪ブリックビルの建設資金として借り入れしておりましたシンジケートローンの一部を繰り上げ返済したことにより、支払利息が減少いたしました。

以上の結果、個別業績の通期見通しにつきましては、売上高は平成22年11月5日に開示いたしました予想数値を若干下回るものの、営業利益、経常利益及び当期純利益は予想数値を上回る見込みであります。

連結業績につきましては、株式会社ラソソテが営むその他の事業のうち貸会議室の需要が順調に伸びており、新大阪駅前という立地の良さを活かした新規ユーザー獲得とともにリピーターの着実な増加で、事業全体の底上げができました。その結果、株式会社ラソソテといたしましては、売上高、利益面ともに予想数値を上回る見込みであります。また、開発子会社の益盟軟件系統開発（南京）有限公司につきましても、経費抑制により利益が予想数値を上回りました。

その結果、連結売上高は予想数値を若干下回るものの、連結営業利益は大幅に上回り、連結経常利益も予想数値を上回る見込みであります。

連結当期純利益につきましては、個別業績で計上しております関係会社株式評価損や関係会社貸倒引当金は連結上で既に当該連結子会社の業績として認識しており、また、平成23年3月期より繰延税金資産の回収可能性を見込めることとなったため、予想数値を大きく上回る見込みであります。

（注）本資料における予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものであります。

予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

以上